

令和8年度 国立市立国立第一小学校 学校経営方針

ver.令和8年4月1日

学校教育目標

「自分で考え 進んで活動する子」

○蓄えた知識や技能を活用して諸問題を解決する力

「力を合わせて 高め合う子」(令和8年度重点目標)

○人を大切にする心や地域を愛する気持ちを表す行動力

「思いきり体を動かし 元気な子」

○心身の健康と自他の安全を目指す実践力

学校づくりのキーワード **人づくり 地域づくり 夢づくり** の実現に向けて

☆ほめて伸ばす 子供はもちろん、大人も

☆チーム一小 組織的な分掌 諸課題への対応 同僚性の強化

☆地域との連携 保護者・地域はチームの一員 ともに伝統の構築を

市や都の指針に基づいた校内体制の整備

○一人1台端末の日常化と「オンライン学習」へのアプローチ

- ・授業のツールとして、PCを日常的に使用していきます。
- ・いろいろな場面を想定して、Google Classroomの日常的活用をさらに推進します。

○働き方改革の推進

- ・校務支援ソフト及び校務のクラウド化による、学校運営の効率化とセキュリティ強化を実践していきます。
- ・物の整理整頓を徹底し、業務の効率化を図るとともに、服務事故を防止します。
- ・教職員の時間外在校時間を月45時間以内に設定します。保護者への理解と協力も啓発していきます。
- ・SSS(スクールサポートスタッフ)及び副校長補佐による校務支援の効果を、今年度も、さらに高めていきます。
- ・学校と保護者との電話連絡の時間を7:45~18:00にします。

○学校の包摂力を高める取組を充実させ、一人ひとりがその子らしくいられる特別支援教育を推進します。

- ・特別支援学級「杉の子学級」との交流学習を、各学年でさらに充実させていきます。
- ・教室での学びを高めるために、特別支援教室「はばたき」での指導の共有を日常化させていきます。
- ・担任との協働を通して、SS(スマイリースタッフ)による教室での個別支援をさらに充実させていきます。
- ・校内委員会において、個に応じた適切な支援体制を考えて実施していきます。

一人一人がその子らしくいられる教育の充実

○一人一人のニーズと実態に合わせた教育活動の推進

- ・「はばたき」の指導を全ての教員が共有します。
- ・「SS」による学習支援を実態に応じて意図的に実施します。
- ・「子供と家庭の支援員」による居場所づくりや登校支援を積極的に展開します。
- ・「交流支援員」を積極的に活用して、杉の子学級の交流及び共同学習をさらに日常化させていきます。

○互いを尊重し合う人権教育の推進

- ・人権課題を知る機会を各学年に位置付けて実施します。
- ・異学年交流、共同学習、校外における学習機会の中で、共に学び、互いのよさを認め合う友人関係を築いていきます。

保護者・地域と一体となって学校をつくる「コミュニティ・スクール」

○学校運営協議会を中心に、「チーム一小(学校・保護者・地域)」の連携力を一層高めていきます。

- ・これまでの地域協力者及び学校評議員との協働体制を軸に、コミュニティ・スクールとしての取組を充実させます。
- ・地域の方を招聘した授業づくり、地域の自然や文化財を教材化し、「地域で学び、地域に還す教育」を推進します。

チーム一小 7つの取組

その1 校内研究を通じた学力向上・授業力向上・組織的な教育力の向上・授業の質的転換

- 国立市研究奨励校としての成果を一層推進 → 全員参加型の校内研究で学び合う教員集団を一層成熟させます。
- 教員一人一人の指導スキルの向上を目指した校内研究 → 「国語」、「算数」、「ユニバーサルデザイン」を中核に
- ゴールは「主体的で対話的な深い学び」 → 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を図ります。
- 1人1台端末の学習での活用を全ての教員のツールに → 実践交流会の通じた校内研究

その2 みんなでやれば学力が伸びる 学力の向上=指導力の向上

- 「わけをそえて」「伝え合い」を授業スタイルの根幹に → 全ての授業で日常化を目指す。
- 基礎的知識や技能の習得 → 全クラスで計画的な宿題の実施。
- 各教科で問題解決型学習の実施 → 課題把握、自力解決、検討、まとめを意識した授業(絞って効果的に)
- 学級づくりは授業力の向上から → 望ましい学級経営、専科経営を目指して授業力で信頼関係を結ぶ。
- 国語・算数における基礎基本の定着を図る → 「スキルアップ」期間を活用した個別指導で確実な習熟を図る。
- 中・高学年における系統的な英語教育の充実 → 時間講師を活用した英語専科制による専門的指導の充実を図る。
- タイピングスキル向上と協働学習支援ソフトの活用推進 → 学年に応じて計画的に活用スキルの定着を図る。

その3 地域や保護者、学校を支えてくれる人とのつながりを「ふるさと谷保プロジェクト」としてカリキュラム化に

- 世界企業「ヤクルト」との授業交流 → 6年理科の発展として
- 城山「さとのいえ」との人・もの・場所の交流 → 稲作体験(5年)、自然散策(1年・2年)
- 谷保の自然と文化を教材化 → 年間を通じた「城山探検」「湧水の散策・観察」(3年)
- ASSの活用で学力向上 → 担任との連携でいわゆる「補習」への発展を
- 一小の児童中心の本町学童クラブと支え合う関係に → 連絡と連携の強化
- 一小小ソフトのメンバー発掘 → PTAサークルのソフトボールへの協力・支援
- 目指すは三中生、そして、「幼・保・こ」との連携強化 → スムーズな連携を目指した「かけはしプログラム」の立案と試行
- 地域の方を招いた授業の実施 → 被曝体験、租税、薬育、人権、命の教育、谷保の自然や歴史 etc.
- 「コミュニティ・スクール」の機能を活用した取組の推進 → 学校運営協議会との連携及び協働体制
- 「ふるさと谷保」を見据えた谷保の魅力の共有を → 地域行事への参加促進、「天神太鼓」の取組、「ふるさと」歌唱等
- 地域の願い、地区の子供会の参加率向上への一助 → 夏休み前に、地区の行事への参加を声掛ける。

その4 体力向上を目指したこれまでの取組を確実に実行する。

- 体力テストで結果をだす。分析を生かす。 → 市の体育協会の指導の下、全学年で体力テストに備える。
- 日々の体育の授業とともに強化旬間で取り組む。 → 短なわ、持久走に加え、児童主体の取組を計画的に実施する。

その5 個を大切にすることで初めてできる集団、日々の徳育

- 「杉の子学級」との交流学級、交流学習 → 全ての学年で日々の連携。設置校ならではの相互交流の試行
- みんなが生き生きと生活する学級づくり → 学校生活満足度調査「Q-U」と構成的エンカウンターを活用
- 「ほめる」「できる」「ほめる」の連鎖 → ほめられるように指導、成功、ほめるの流れを教師がつくる。
- 互いを尊重し合う人権教育の推進 → 人権課題を知る機会を各学年に位置付ける。
- 生命尊重の授業を全学年で実施 → 命の教育、いじめ撲滅を旗印とした道徳授業を実施する。
- 「はばたき」による個別の指導を生かした日常の実践 → 各学級での指導や日常的な声かけに生かす。
- SS(スマイリースタッフ)による支援の協働 → 特別支援教育コーディネーターを中心に担任とSSの連携を推進
- がんばりをみんなでたたえる雰囲気 → 月に一度、全校朝会で定期的に賞状を紹介する。
- 「幼・保・こ」の園児との交流の促進 → 教職員の相互交流の推進と子供の交流を推進する。
- 児童の安心づくりに向けた保護者との連携の一層の充実 → 一人一人が自分らしさに自信をもって過ごせる毎日を守る。

その6 児童主体の教育活動の充実

- 児童のアイデアを生かした学校行事 → 児童の願いを形にできる体育的行事や文化的行事の推進
- 児童の主体性を伸ばす委員会・クラブ活動 → 「みんなでつくる」「みんなのための」委員会・クラブ活動
- 移動教室・野外体験・遠足・校外学習 → 異学年交流や共同学習における交流の成果が発揮される機会に
- 児童が継承していく「自慢の一小」 → 自ら「あいさつ」をみんなで。きれいな学校をみんなで。
- 児童主体の教育活動(学校行事、特別活動)の充実 → 児童のよりよい社会性や豊かな人間関係の構築を図る。
- 異学年交流(にこにこ活動班)を活用した教育活動の充実 → 上級生の取組の様子から下級生が学べる機会を充実させる。
- 「地域の学びを、地域に還す教育」を形に → 児童主体の「学習発表会」で、保護者・地域との交流を充実

その7 安心・安全の実現

- 「コミュニティ・スクール」でつくる「安心・安全」 → 保護者・地域と一緒に、「見守り」「防災」「いじめ防止」
- 全ての教員で、朝の児童の登校を迎える。 → 教室で迎える。玄関で迎える。校門で迎える。
- みんなで見守り「おかえりなさいの日」 → 毎月1日実施。PTAの発案を、保護者、地域に広げていく。
- みんなでつくる安全の登下校 → 地域協力者と保護者ボランティアによる持続可能な体制づくり
- いじめ未然防止、早期発見、早期対応 → 報連相で「いじめ対策委員会」の早期開催、早期対応
- 「Q-U」を活用した健全な学級経営、毎日の声かけ → 構成的グループエンカウンターを活用した魅力ある学校づくり
- 一人一人のニーズや不安に寄り添う支援体制と環境整備 → 「家庭と子供の支援員」「オンライン授業」を活用した登校支援
- 避難訓練、防災体験、学校危機管理マニュアルの随時見直し → 6年間を通じた計画的な実施と、地域と連携した防災訓練